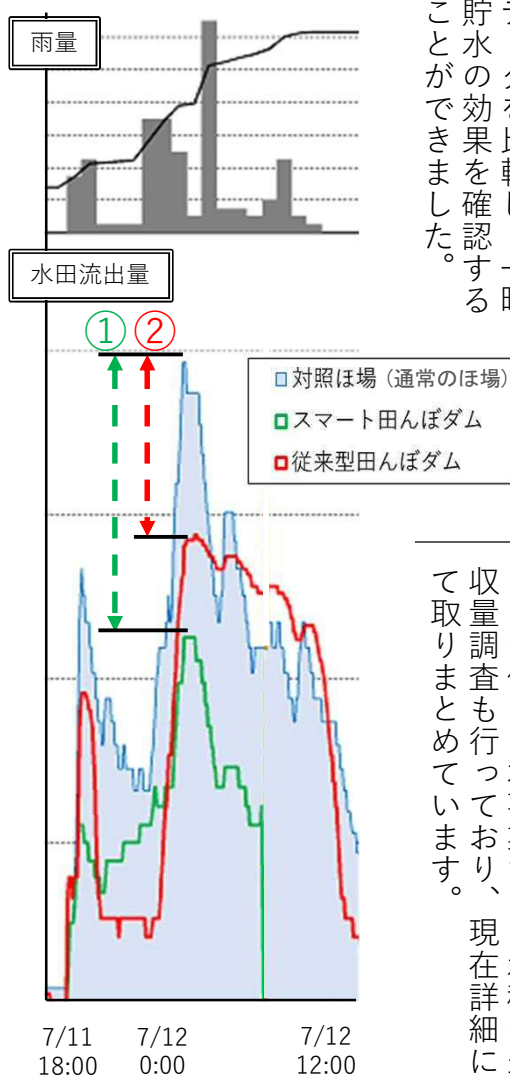


スマート田んぼダム実証事業全体会議の開催



9月17日(木)に農林水産省主催のスマート田んぼダム実証事業(全国8地区)の担当者による全体会議(Web会議形式)が行われ、実証データを基に、各地区から効果や課題等について意見が出されました。本県では、仙北管内の「大仙美郷地区」で実証事業を行っています。今年は例年に比べ、まとまった降雨が少ない状況でしたが、「スマート田んぼダム」、「従来田んぼダム」、「対照ほ場(通常のほ場)」の実証データを比較し、一時貯水の効果を確認することができました。

今回はその一部について紹介します。左のグラフは、7月11・12日の降雨時の観測データです。グラフの①・②の矢印のとおり、対照ほ場と比較すると、田んぼダム実施水田では、排水量のピークを低減させる効果が確認できます。また、①・②の差はスマート田んぼダムの自動排水栓により、降雨前に一斉落水したことで、従来型田んぼダムより多く、貯水容量を確保できたためと考えられ、スマート田んぼダムの有効性を確認できました。

この他にも本事業では、水稻の生育・収量調査も行っており、現在詳細について取りまとめています。

(グラフ：観測結果※速報値)

田んぼダム通信

【第4号】

発行所
秋田県農林水産部
農地整備課
水利整備・防災班
TEL: 018-860-1830
農地整備班
TEL: 018-860-1824

PICKUP

□区画整理工事現場での取組

今回は、区画整理工事実施中の内小友西部地区(大仙市)での、施工業者による「田んぼダム」の取組について紹介します。

区画整理工事では、良好な施工条件を確保するため、通常降雨時には、現場内の排水を速やかに行いますが、工事が本格化する6月～8月にかけて、梅雨前線等の影響により、現場周辺や下流域での湛水被害が懸念されています。

本地区の施工業者6社で組織する「内小友西部地区安全協議会」では、工事期間中も、田んぼの一時貯水の機能を確保し、現場に降った雨が下流域へ直接放流されることを防ぐため、田面排水枥へ田んぼダム用の流量調整板を設置しています。

この取組は、施工業者による創意工夫として、地域貢献活動の一環として行われていますが、豪雨時には有効な取組であるため、県内各地域への拡大が期待されます。



(流量調整板の設置状況)